

インドネシア

インドネシアにおける社会福祉事業とソーシャルワーカー

マリジュキ&ネルソン・アリトナン
(バンドン社会福祉専門学校)
訳 中村 君子

A. 序

インドネシアの憲法は、次のように定めている。国は、インドネシアの人々の幸福の向上に対して義務があり、政令をだす。その義務を果たすために、政府は、人々の生活の質を高めるための様々なプログラムを作らなければならない。それらのプログラムは、いくつかの省庁によって、同様に地方自治体によって、指揮される。

インドネシアの発展は、地域生活のいくつかの面の向上に影響を与えた。しかしながら、また、ある側面では、その発展は、様々な社会問題、たとえば、貧困、少年非行、薬物乱用、争い、家庭崩壊、路上生活児童、虐待される子供、無視され、放置される子供と老人、障害者、スラム街等々、そのような問題をも生み出した。経験上、すべての部門において、開発の方針というものは、経済成長の増大であり、人々の雇用機会を作り出すものであるが、別の面では、発展の影響はまた、その地域に社会問題を作り出す。これらの社会問題は、慈善、あるいは地域や政府の付随的な活動では、解決することはできない。なぜなら、その問題の解決には、確かな知識と技術のある専門的な解決方法を基礎としてなされる必要があるからだ。社会福祉局に配属され働く、専門的なソーシャルワーカーの数は、繰り返され、また多様性のある、解決すべき社会問題に比してみると、まだまだ、限られたものである。その上、教育や健康や産業のような他の部門にもより配慮が必要なので、社会福祉プログラムの予算は、非常に制限されている。それゆえインドネシアにおける社会福祉プログラムは、地方や、国や、国際的なコミュニティの協力を必要としている。

B. 歴史的、政策的、経済的、概念的、文化的要因

歴史的にみると、インドネシアの社会福祉プログラムは、1945年にインドネシアが独立

を達成してから、今まで、実行されてきており、社会事業庁は、非政府組織の協力を得て、そのプログラムの運営の指導部門となっている。時により、政府の関心事となる社会福祉の問題は、いつも同じではなく、ある時期には、政府とその地域は、貧困問題に関心があり、また別の時期では、高齢者問題、薬物乱用、災害などに関心が向けられた。社会福祉プログラムにおいて、今年、政府は、他の社会福祉問題を取り扱っていかねばならぬ一方で、貧困の軽減と、津波の犠牲者の救済に焦点をあてた。社会福祉問題を解決する為の政府の支援は、社会福祉プログラムを必要とする人々にとって、期待されている。しかし、福祉の予算は、限られているので、政府はいつも非政府組織や人々を救う他の社会資源を取り込もうとしている。

政策的にみると、行政と立法機関はいくつかの法律を作ることによって、社会問題に対処するという政策的意図を持っている。その法律とは、児童保護、高齢者、社会福祉、児童福祉、家庭内暴力、社会保障制度、基本的人権などである。法によって、政府は、地域の社会問題を縮小していく責任があるので、中央政府と地方自治体は、社会福祉プログラムを実行するための制度を作っている。中央政府の社会福祉制度の組織は、社会事業庁である。地方自治体では、社会福祉事務所である。政府は、ソーシャルワークの知識と技術を持つ人を雇おうとするが、ソーシャルワーカーの数は、大変少ない。政府はまた、職業としてのソーシャルワークを作ることによって公務員となったソーシャルワーカーを認めしており、彼らの資格のランクによって、その報酬が支払われている。

インドネシアにおけるアジア経済危機もまた、都市と同様に地方において、貧しい人々、路上生活児童、放置された子供、失業者などの社会問題の増加によってしめされる社会の脆弱性に、衝撃を与えた。中央統計局のデータベースによると、2004年の貧困者は、3617万5000人であり、全体の人口、およそ2億3800万人に比べると、これは社会生活のほかの面に強い影響を与えることなので、非常に深刻な問題である。アジア経済危機はまた、政府がまず経済状態の回復をしなければならなかったので、社会福祉のプログラムの予算額に困難を生じた。そのため、社会問題を解決するために地域社会や個人の、また地方や国家や国際的な資源の寄付は、政府の重要なパートナーになっている。

インドネシアには、パンチェシラ（注1）という概念がある。この概念は、社会生活の一部となっている。この概念の価値観は、人々の振る舞いや、政府を指導するものである。ソーシャルワークにも関与するパンチェシラの価値観は、すべてのインドネシア人と人類にとっての社会正義である。社会福祉プログラムの使命は、これらの価値を反映した意図に導かれている。だから、ソーシャルワーカーは、支援を必要とする人々に、これらの価値観を説明しなければならない。

インドネシアは、様々な地域、文化、習慣、道徳、倫理、宗教言葉で成り立っているの
で、政府は、常に、社会福祉プログラムを作り出す事と、実行することにおける多様性に
ついて考えなければならない。その結果として、ソーシャルワーカーは、独自性のある人々
に供給することを考慮する人々とともに働くことになる。しかし、ソーシャルワーカーは、
いつも様々な社会問題のある地域に居るわけではないので、政府は、正式なソーシャルワ
ーカーの教育を受けていない人々に、短い訓練をすることによって、社会福祉プログラムを
行う職員を雇用している。

C. 社会福祉問題と解決の方法

地域社会には、様々な社会福祉問題がある。社会福祉サービスは、政府と地方自治体の
様々な部門によって実行されている。社会事業庁によって、供給されている社会福祉サー
ビスは、次のものである。

- 1、 最も貧しい人々への援助プログラム
- 2、 スラム街の更正プログラム
- 3、 路上生活児童のためのプログラム
- 4、 孤立した地域社会ためのプログラム
- 5、 放置された子供たちのためのプログラム
- 6、 災害の犠牲者のためのプログラム
- 7、 障害者のためのプログラム
- 8、 非行少年のためのプログラム
- 9、 薬物乱用を扱うプログラム
- 10、 高齢者のためのプログラム
- 11、 障害児のためのプログラム
- 12、 5歳以下の子供たちのためのプログラム
- 13、 社会の規範に従う事のできない人々のためのプログラム
- 14、 安全保障のためのプログラム
- 15、 社会福祉の潜在性をエンパワーする事と開発するためのプログラム
- 16、 家族の役割をエンパワーするためのプログラム
- 17、 青年組織をエンパワーするためのプログラム
- 18、 ボランティアを増やすためのプログラム
- 19、 社会的ガイダンスのプログラム
- 20、 社会的組織の発展のためのプログラム
- 21、 地域の公共団体施設を開発するためのプログラム
- 22、 英雄的行為や、率先者を支持し利用するためのプログラム
- 23、 家庭内暴力の被害者と、移住労働者のための社会援助プログラム

- 24、 新たな国内の難民のためのプログラム
- 25、 社会資源を利用するためのプログラム
- 26、 民間企業と地域のパートナーシップを発展させるためのプログラム
- 27、 社会福祉政策のためのガソリン支給のプログラム

地域には、たくさんの社会福祉問題があるが、社会事業庁は、5つの大きな事柄に焦点を当て優先している。

- 1、 貧しい人々のなかでも、特に貧しい人々
- 2、 無視され、放置されている子供たちと老人たち
- 3、 障害者
- 4、 社会の基準に沿わないひとびと
- 5、 被災者（暴動による犠牲者）

いくつかの社会問題についていえば、中央政府と地方自治体は、地域と民間団体に、彼らもまた、彼らの周りの社会福祉問題に対応するための権利と責任があることを知らしめる。経験的に言えば、津波のケースでは、地方と国と海外の団体は、津波の打撃に対する緩和と復興に大きな役割があった。団体による参加のタイプは、金銭のみでなく専門性や技術もある。

社会福祉問題を克服するための社会事業庁の政策は、次のものである。

- 1、 社会福祉サービスを広く行きわたらせる
- 2、 専門的な社会福祉サービスを増やす
- 3、 社会福祉サービスの経営の向上
- 4、 社会福祉サービスを運営する団体の参加を増やすことと、向上させること
- 5、 地方分権化政策の実施を支援する

社会福祉問題に対処する社会福祉サービスのシステムは、国と地方自治体、また NGO によって、調整される。社会福祉サービス団体のいくつかの会議はまた、その地域社会の様々な社会福祉プログラムの調整に貢献している。これらの会議は、地域社会と政府から、社会福祉プログラムについての言質を創り出し、広める手段となっている。プログラムの運営にあたって中央政府と地方自治体は、幾人かのソーシャルワーカーを雇用することができる。それで、社会福祉プログラムは、ソーシャルワークの目的が考慮され、計画され、実行される。

社会福祉問題の解決において、そのプログラム実施には幾つかのアプローチがある。一般的に、地域プログラム実施において政府、非政府関係の実施者は、マクロ的な方策を利用する。実際、この実施方法は、インドネシア特有の事情においては最も有効であり、その実施施策を、しばしば、地域への権限委譲、自主自発能力向上と言う言い方で表現する。一方、政府社会福祉局の行う実際の業務と言えば、そのほとんどは、利用者への対応において、個人、あるいは、グループでの対応となる。つまり、その実際の問題対応方法とは、地域社会を基本として実施するものか、あるいは、中央組織を基本として実施するかの違いである。

D. ソーシャルワークの将来の方向性

インドネシアの背景において、おもな社会福祉問題は、貧困と災害である。だから、これらの問題に適したソーシャルワークの方法と技術は、問題を緩和するために重要な要因となる。

訳者 注1、パンチェシラ

<建国の5原則>

- 1、唯一神への信仰
- 2、公正で文化的な人道主義
- 3、インドネシアの統一
- 4、合議制と代議制における英知に導かれた民主主義
- 5、全インドネシア国民に対する社会的正義

[Wikimedia](#) 参照